

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	日本私立学校振興・共済事業団
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区富士見一丁目10番12号
工場等の名称	愛知会館「名古屋ガーデンパレス」
工場等の所在地	愛知県名古屋市中区錦三丁目11番13号
業 種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	私学共済加入者の宿泊施設
計画期間	2022/4/1 ～ 2025/3/31

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	2023/4/27 ～ 2023/7/26		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場 所） 愛知会館「名古屋ガーデンパレス」防災センター
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-957-1707		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当施設は、地球温暖化をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて持続的発展可能な社会の実現に貢献します。

1. 継続的な環境改善

専用水道及びコ・ジェネレーションシステムの有効活用とインバータ制御による省エネに向け努力する。

2. リサイクルの推進

グリーン購入法に基く物品の調達を行う様に努める。

3. 職員への環境教育

職員に対して環境教育の一環として、毎週日曜日の朝、各部署代表者により、近隣の清掃活動を実施する。その他、当会館ロビーと玄関周辺、東側を中心に花、植物等を植え、緑化推進を図っている。

4. 産業廃棄物抑制

ゴミの分別を徹底し、再生資源の有効活用を促進する。

5. 自動車等輸送機関に関する対策

自家用車での通勤及び営業活動を自粛し、公共交通機関、自転車等の利用を奨励する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

館内連絡網を利用し、職員、従業員への周知。

その他、月次業績会議、朝礼等から職員、従業員への周知。

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,158	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,158	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,886	t-CO ₂	2,830	t-CO ₂	2,158	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			▲ 50.1	%	▲ 14.4	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量								
削減率（対 基準年度）				%		%		%
原単位あたりのみなし排出量								
削減率（対 基準年度）				%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

コロナ禍の中でも、年度後半は外出制限の緩和などの影響で、客室、宴会場の稼働が徐々に回復したため、排出量が若干上昇した。次年度は、さらに上昇すると考えられるが、不要な機器の運転停止等を継続し温室効果ガスの排出削減の努力を継続したい。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果
備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排
備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品
備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/省エネルギー使用量等の把握及び管理	エネルギー（光熱給水費）の使用量の把握	使用量のグラフ化の掲示及び周知と経費の削減	継続実施中
省エネルギー・省資源の推進/空調	①冷温水機の整備等 ②空調機・給排機のスケジュール管理	熱効率の向上と燃料費の削減等によるCO ₂ 及びエネルギー使用量と原単位の改善	継続実施中
省エネルギー・省資源の推進/空調	クールビズ・ウォームビズの推奨	ホテル利用者に限らず、従業員へ周知し室内温度の管理	継続実施中
省エネルギー・省資源の推進/照明	①未使用か所（宴会場・ロビー・トイレ・廊下等）の消灯 ②蛍光灯を順次LEDに更新 ③エレベータ使用制限（直上直下階等の移動時）	電力量の削減	継続実施中
自動車利用における取組	営業活動	自転車や公共交通機関の利用を推進 エコドライブの推進（急発進・急加速をしない、アイドリングストップの励行）	継続実施中
調理における取組	調理調整	食品ロスに心がけ、残品の有効活用の励行 ゴミの減量化	継続実施中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・エレベーター（4 号機）の更新 ・両面コピー、裏紙利用等による紙使用量の削減 ・職員、従業員の通勤の規制（公共交通機関を利用）
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・当会館周辺の近隣清掃を実施 ・各空調機、加湿器、換気設備等の点検強化と清掃
--